

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471400192
法人名	NPO法人 のんびりすみちゃんの家
事業所名	グループホーム すみちゃんの家
所在地 (電話番号)	宮城県東松島市新東名四丁目11-14 (電話) 0225-86-2341

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 11 月 27 日

【情報提供票より】(平成20年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	2階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,200 円				

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1		名	要介護2	1	名
要介護3	5	名	要介護4	3	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	85, 2 歳	最低	80 歳	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐幸医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から歩いて約3分、静かな住宅地に「のんびりすみちゃんの家」として宅老所、デイホーム、居宅介護支援事業所、ケアハウス、地域密着型認知症対応型高齢者グループホームがあり、多角的に活用し地域の高齢者の生活を支えている。グループホームは、認知症でもできるだけ自立して生活を送って頂ける様、「ケア付き住宅」と位置付けている。ホームは、自然の素材に囲まれ落ち着いた生活をしたいと言う管理者の思いもあって、木材、和紙、木綿、畳等を選んで作られ、木のぬくもりを感じ落ち着いた雰囲気である。「ともに、自分らしく、普通の暮らしを」理念とし、フットケアにも力を入れており、マッサージや足浴など1対1になり会話を楽しみながらケアをしている。尚、アソビリテーションとして、言葉遊びや口腔体操、ラジオ体操等楽しみながら口や手足を動かし生活リハビリとして活用している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①異動については、できるだけ慎重に対応する。やむを得ず異動する場合は、入居者ができるだけ混乱しないよう新しい介護者に、充分引継ぎチームで対応する。②災害対策について、避難訓練は年2回実施し内1回は夜間の一人体制を想定した訓練も実施した。今後も夜間想定した避難訓練は継続していただきたい。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は「評価は基準省令の義務条項である」と言う事を理解しており、自己評価は、職員皆で項目毎に話し合い担当者がまとめた。チームケアとして経験の多い人も、少ない人も「気付き」があってその思いを共有している。自己評価のサービス成果(自己採点)と家族アンケートの満足度を比較すると自己採点は謙虚であった。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーは入居者、家族、市の担当者、区長、保健福祉委員とホームの関係者である。奇数月の第3土曜日、家族会と連携しながら定期的に開催されている。ホームは、地域との絆をより良くし、地域の認知症に対する偏見や誤解を解く為にホームのよき理解者であり協力者になって頂けるようホームのサービス状況や行事などを報告し、メンバーの皆さんから質問やアドバイスを頂いたり双方向性の会議になっている。(議事録より)尚、テーマによっては知見を有する人もオブザーバーでお願いしたい。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>訪問すると家族的な雰囲気でも気持ちよく迎えて、入居者の生活の様子や健康上の事等話してくれる。来れない家族には担当職員が生活の様子や健康面等を定期的に手紙等で知らせている。「すみちゃんの家たより」は2ヶ月に1回作成され、家族等に配布している。法人としてはインターネットで公開している。相談苦情は、サービスの向上にとって貴重な情報である事を理解しており、投書箱を設けホーム、国保、市の窓口は重要事項説明書に記載されているが第三者委員の記載していただきたい。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者は、地域の福祉活動のボランティアとして関わって来ただけに、地域との交流を大切にしている。ホームは、地域住民の一員として地域の防災訓練に参加し、一緒に消火訓練や炊き出しも行なっている。散歩の時は、空き缶やごみを拾いをしたり清掃活動もしている。地域の行事である敬老会には、入居者、家族、職員も一緒に参加し地域の人達との交流を深めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者の想いがあって設立されたホームであり、その思いが理念の原点である。「のんびり、ともに、たのしく」とうたっており、地域との交流を通してより良いケアに努めている。ホームは地域密着型サービス事業所になり、より地域との関係を意識した事業所として、理念の内容についても皆で話し合っていたきたい。	○	「地域生活の継続」や「地域との関係性の強化」など、より地域住民との交流を意識した理念が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、行動規範であり実践されて意味がある。ミーティングや運営委員会等で、理念の想いを共有し家庭の延長を意識してより良いケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行なわれる防災訓練に参加し、消火訓練や炊き出し等を行ったり、地域の行事である敬老会には、入居者と職員だけでなく家族も参加し、地域住民の一員として地域の人々との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、基準省令の義務条項で評価し、常にサービスの質の改善に努めなければならない事を管理者はよく理解している。自己評価は職員皆で、項目毎に話し合い担当者がまとめた。チームケアとして、経験の多い人も少ない人も「気付き」がありその想いを皆で共有できたと職員は話してくれた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者、家族、市の担当者、区長、保健福祉委員、ホームの関係者で構成され、地域との絆をよりよくし認知症に対する地域の偏見や誤解を解き、ホームのよき理解者であり協力者になって頂くようお願いしている。運営推進会議は、定期的に2ヶ月に1回第三土曜日開催され、ホームのサービスの状況等を報告しメンバーからは質問やアドバイスを頂きサービスに活かしている。(議事録より)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との関係はよく、今回も担当者が同席され管理者の説明に熱心に耳を傾けていた。ホームは、市主催の研修会等には積極的に参加したり、民生委員の研修等にも協力している。「認知症になっても安心して住める街づくり」の為キャラバンメートの資格も取り、認知症サポーターの育成にも取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	訪問すると家庭的な雰囲気できちんと迎えて、入居者の生活の様子や健康上の事等、お話してくれる。(家族アンケートより)「すみちゃんの家たより」は2ヶ月に1回発行され、楽しかった事(七夕祭り等)、美味しかったもの(おはぎ等)、また、スタッフや行事等も写真入りで紹介している。健康面等の情報は、担当の職員が定期的に手紙等で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、相談や苦情はサービスの向上にとって貴重な情報源である事を理解している。玄関に投書箱を設けたり、運営推進会議や家族会でも意見に率直に耳を傾けている。重要事項説明書には、相談苦情のホームの窓口、国保連、市の窓口は記載されているが第三者委員の記載が無いのでお願いしたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症高齢者にとって、馴染みの場所で馴染みの物に囲まれ馴染みの人によるケアが、基本である事を職員は理解している。異動については慎重に対応しており、異動があっても入居者の混乱を出来るだけ避けるよう、新しい人には、利用者に関する情報やケアの方法等を十分に引き継ぎ支援の継続性を大事にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質の向上の為に、計画的に職員を研修に参加させている。特に新人研修の「業務の概要と理念」について管理者自ら講師になって実施したり、県から講師を派遣して頂き、法人内で合同の研修会を持ったりしている。また、国家資格の取得に対しても積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会にも加盟しており、協議会や地区での研修会や交流会にも参加している。情報交換や地域での課題など話し合ったり、実践的な知識や技術の向上だけでなく、親睦会などを通してストレスの解消にもなっている。地域の他のホームとの相互訪問や県の宅老連絡会にも加盟し交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が家族に突然知らないところに、入れられたと言う想いを少しでも減らすように、入居の前に、職員が訪問して本人や家族とお話をしたり、ホームに来て頂いてひとときを皆と一緒に過ごす等、職員や入居者と少しでも顔見知りになって頂くよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢者は知恵袋を背負っているとも言われている。昔覚えた手続き記憶は、認知症になっても体で覚えている。日常生活の調理では味付け、旬の材料を使つての料理、餅の美味しい食べ方、お煮しめの美味しい作り方等、一緒に調理しながら教わる事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「思いや意向」を把握し共有ケアに活用する事がチームケアの原点である。生活歴や人生体験等を家族や関係者に聞いたり入居者と2人になる通院の車でや足浴、居室などでしんみり話し合ったり、何気ない会話での思い等「思いノート」に記録し共有ケアプランに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はチームケアの要である。入居者や家族の意向を尊重し、担当者中心に関係者によるカンファレンスを行い、長期短期の目標を立て、個別具体的な計画が作られている。尚、家族には介護計画をお話し、同意を得て計画書をお渡ししている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しは、3ヶ月ごとに実施している。また、毎月モニタリングをし、必要に応じてカンファレンスをして計画を見直し、ケアの方法の修正をしている。尚、療養等の関係上必要な場合は、その都度介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症になっても住み慣れた地域で生活できるよう、条件付でホームもデイサービスやショートステイもでき、リロケーションダメージを少なくする事ができるようになった。法人内の福祉施設の連携によって、その役割(デイやショート)も実施されている。通院には家族が原則であるが、都合がつかない時は職員が付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「私たちは漁業なので、母が病院に行く時でもついて行けない時は、ホームの職員がすぐ病院につれて行ってくれるので本当に助かっています。」(家族アンケートより)通院で家族が行ける時は、「受診時連絡用紙」を持参し、その結果は家族から報告を受けている。必要によっては家族と相談し、訪問診療や専門医の往診もお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のグループホームのケアには限界がある事は、「ケアの方針を統一して」家族とお話し納得を頂いているが、統一した方針として出来る事、出来ない事を含め「重度や看取りの指針」として成文化し、それによって意思確認などもしていただきたい。	○	本人の意思や家族の協力の下、医療と看護と介護の連携によりどこまでケアができるか、その時の状態の変化に応じて成文化した指針に基づき、延命治療か緩和ケアを含めて意思確認もお願いしたい。重度になっても日常ケアの延長上に、安心して生活ができるような在宅介護支援診療所と訪問看護ステーションとの連携等も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は、人生の先輩として尊厳を持って接している。呼び名は、今までのように名前や姓にさんづけで呼んでいる。名前で呼ぶ機会を多くする事で、入居者は自分を意識してきている。入浴や排泄等羞恥心に関わる事は特に気を使っている。個人情報の管理取り扱いは、家族にも話しをして充分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを基本としており、入居者の個々のペースを尊重し起床、食事、入浴、外出等できるだけこれまでの生活が継続できるように努めている。食事にしても、好き嫌いを把握し栄養バランスを考え、人によって刻み食やトロミをつけたり食べやすくする等、その人らしい生活の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「入居者も職員も楽しみは食事です」と言われた。入居者も調理や後片付け等、できる事を手伝っている。職員も一緒に同じ物を食べ、会話をしながらサポートしており家庭的な団欒が見られた。尚、新年会、忘年会などいろいろなイベント食は、バイキングが定着している。また、外食も楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の今までの生活のリズムを大切にし、希望する時に気持ちよく入って頂ける様、入浴剤を使ったりいろいろ努力されている。入浴を拒否する方には、上手に声掛けをして入ってもらっている。体調によっては、清拭にしたりドライシャンプーを使ったり衛生面についても配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞を取る役割と思っている人、職員と一緒に掃除する人、家庭菜園を手伝う人、味見や調理を手伝う人、篠笛を楽しむ人、歌や踊りが得意で行事には披露してくれる人等、一人ひとりその人の持ち味を活かしながら、生活できるよう見守りながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は気分転換やストレス解消になり、精神衛生上もよく生活範囲が広がると言われている。外出は、日和山公園の花見等季節に応じて外出計画を立て、天候や入居者の体調等も考慮し実施している。また、個人的なお墓参りや馴染みの美容院、買い物等にもできるだけ希望に添うなど努力をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵を掛ける事の異常性を、職員は理解しており鍵を掛けていない。徘徊気味の人には、声を掛けたり見守りをしたり地域の人にも協力をお願いしている。外部からの不審者に対しては、法人の連携や地域の協力を得て対応していきたい。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害のマニュアルも有り備蓄もしており、年2回の避難訓練も実施している。また、夜間のひとり人体制を想定した訓練も実施している。他のホームの火事以来、消防庁の特別査察では、「夜間の避難体制の確認」もする事になった。尚、夜間想定避難訓練は継続していただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は美味しく食べやすくそして栄養のバランスにも配慮している。一人ひとりの好みなども把握しながら食事を提供している。体重も定期的に測定し食事の摂取量や水分量などもチェックし記録している。尚、法人の管理栄養士から指導助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間についても管理者の思いがあり、自然素材(木材、和紙、畳等)を使い木のぬくもり等、全体が落ち着いたものが感じられる。臭気や空気の澁みのようなものは感じられなかった。床暖房で、温度や湿度にも気を使っており素足で過ごせるようになっている。壁面には「七福神」や「装飾品」が飾られ、テーブルには可愛らしい季節の花が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方が馴染みの物に囲まれて、自分の居場所として安心して暮らせるよう、家族の方にお話をして使い慣れた身の回りのものを、持ってきて頂くようお願いしている。居室には、馴染みの家具、寝具、テーブル、机、カセットやテレビ、家族の遺影や位牌も持ち込まれ、毎朝手を合わせている人もいる。		